

# 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第179回哲学カフェ例会(2023.5.11)

### 《日本が世界に貢献できることは何なのか?》

「アジアでG7に唯一入っている国、というだけではもはや何の意味がない。むしろこれがアジアのみならず、世界に貢献できないガンになっているのではないか。日本のあり方について、一から真剣に考えねばならないようだ。

#### <問題提起> 主宰者:吉田千秋

・5月19日広島でG7首脳会談が開かれます。日本は議長国として会議のかじ取りを行い、合意を取りまとめる立場にあります。これを機会に今日の例会では、日本が世界において果たすべき役割は何か、どういう貢献ができるのかを考えたいと思います。これに関連して三つの問題を指摘しておきます。

(1)日本は非武装を掲げる平和憲法を持っています。これに基づいてウクライナの戦争を停戦に導くように促すべきではないでしょうか。残念ながら岸田氏この方向を徹底せず、ウクライナにヘルメットや、軍事に転用可能なドローンなどを送り、殺傷能力をもつ武器も提供しかねません。日本が選択すべき国際紛争の解決法は戦争ではないはずです。日本は米欧と一定の距離を明確にとるとともに、特にグローバルサウスの国々に積極的に働きかけることを期待したいと思います。

(2)日本は唯一の戦争被爆国です。核実験の際、運悪く放射能に曝されてしまい被爆した人は他の国にもいますが、戦争で実戦使用された核兵器のために被爆者は日本以外にはいません。日本は核兵器の禁止を先頭に立って呼びかけるべき立場にあります。数年前に必要な数の国が批准して核兵器禁止条約が発効しました。核兵器保有国及び核の傘の下にある同盟国のほとんどはこの条約の締約国に属していません。しかし、日本と同じ様に核の傘の下にあるドイツはオブザーバーとして参加しています。核廃絶に向けて、日本にもドイツ同様オブザーバーとして参加することを期待します。

(3)日本は最大規模の原発事故を起こした国です。

反原発で世界をリードすべき立場にあると思います。いま世界では温暖化対策で再び脱原発の動きが高まっています。にもかかわらず、日本は原発回帰の道を取っています。石炭火力発電の固執も含め、これでは世界に貢献できるはずはありません。被爆の危険を伴わない再生可能エネルギーへの転換を進める責任もあると思われます。

・G7はかつて近代的な工業力を背景とした経済力を背景に、世界の政治経済に大きな影響力を持った先進国の集まりでした。しかし、G7は政治的にも経済的にも、かつての様な圧倒的な優位の立場にはありません。それでもG7は科学技術、文化等の様々な分野で世界をリードする力を持っています。だが、日本は残念ながら先進国の名に値しない点を幾つか上げることができます。日本は飢餓や武力紛争から逃れようとする難民の受け入れにまったく後ろ向きです。LGBT(性同一性)の議論においても、日本を除くG7の6カ国が既に法制化を済ませており、日本だけが取り残される有様です。男女平等の実現においても後進国ではないかと思われる残念な水準に留まっています。

・G7の議長国である日本の世界貢献に関して、日本



総合研究所の寺島実朗氏は幾つか参考になる発言をしています。先日、岸田首相はウクライナを電撃訪問しました。寺島氏はそのまま帰国するのではなく、それに引き続いてロシアを訪問して、プーチン氏と話をすべきであったと言います。岸田首相は直前にインドを訪問してモディ首相と会っていて、ロシアと微妙な友好関係にあるインドと協力して、停戦、和平の条件を共同提案することができたのではないかと。

・さらに、寺島氏は世界を民主主義の国と権威主義

の国の二分法で見ることを諫めています。世界は多極化していて、西側世界にも、中国やロシアにも与しない国々が沢山あります。特にグローバルサウスと呼ばれる国々の動きが鍵を握ることになりそうです。その代表格であるインドも、ブラジルも、南アフリカも、ロシアの侵略を容認してはいないが、まず自分たち独自の利益を第一に考えて行動している様に見えます。

こうした意見を参考に、日本がどのような貢献が出来るか一緒に考えてみましょう。

### <意見交換>



\*今、哲学にはまっている。はっきり言って日本が世界にどういう貢献ができるのか分からない。日本という国をどういうふうに理解すればよいのか、他の参加者の意見を聞いて参考にしたい。

\*日本は真の独立国となるべきである。G7のメンバーであることは昔は先進国であることの証で、日本にとってご褒美だった。かつてG7の国々は世界経済において圧倒的な位置を占めていた。しかし、発展途上国の経済発展で情勢は大きく変わった。近い将来、BRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)のGDPがG7のそれを上回るだろう。日本はもっと他の国々と関係を密にする必要がある。NATOがどうして日本に事務所を開いたのか分からない。

\*日本は天然資源に乏しい国であり、原材料を輸入して加工、完成した工業製品を売って経済を発展させて来た。だからアメリカを含め他国との関係に依存せざるを得ない。出来るだけ多くの国と友好関係を結びことが重要で、孤立は望ましくない。

\*中国14億の人々をまとめるのは簡単ではない。中国と言う国は歴史的に見て、漢民族が中心となって、他民族がその覇権を受け入れる形で成り立ってきた国家である。今も政治は強権的で、覇権主義的である。国家主席の習氏は、当然の様に4千年の歴史を引き合いに出して、共産党の支配を正当化していた。中国にはもっと多様性を重んじる国になって欲しい。

\*対立が激しくなって、軍事的な衝突が起きた時どうなるのか。具体的に攻めてこられたらどうすればいいのか考えてしまう。しっかり考えておいた方がよいのではないかな。

\*戦争をするのは個人ではない。戦争をするかしないかは、国家の政治を動かす権力者の思惑に懸っている。日本が軍事行動をしなければ、日本が他国の軍隊に攻められることはない。

\*敵基地の攻撃がどうだと言った仮定の抽象論が独り歩きしてしまっている。考えなければならない問



題は、台湾問題にどう対応するのかということである。習氏は全人代で、また先の共産党大会で、台湾は中国の一部で、国家統一を完成させるために武力行使も排除しない、と声明した。米国や日本政府だけでなく、ヨーロッパ諸国やカナダやオーストラリアも単なるこけ齧し、強がりではないと理解して、中国政府に警告を発している。危機感は昨年、イギリス、フランス、ドイツが相次いで日本に艦船を派遣して合同軍事演習をしたことにも表れている。台湾有事の際、日本はどう対応するのか前もってしっかり考える必要がある。

\*カンボジアで現地の人たちを援助するボランティア活動に参加した。日本政府はODAで経済発展の支援活動をしているが、現地の人にほとんど認知されていない。日本はアピールが下手で、中国は対照的にアピールが巧みである。日本のODAはしばしば官僚たちの考えた計画、言わば机上の空論に過ぎない。国民の税金が使われる訳だから、効果的に使われているかちゃんと検証しなければならない。先ず現地の人たちの必要に対応した援助が必要である。それが最終的に平和に役立つと思う。

\*テーマが大き過ぎて、相応の意見を述べることは容易ではない。日本の立ち位置を考えてみるとどうなるか。明治維新から約150年、敗戦の年1945年を挟んで大体前後75年が経過した。45年以前と以後の歴史が非常に対照的で、45年まではしばしば戦争を行って、沢山に人たちを死に至らしめた。反対に45年以降戦死者の数はゼロである。憲法9条のお陰で、この重要性を海外で活かすことを考えるべきである。残念ながら9条の精神に相応しない動きが活発になっている。2015年に集団的自衛権を認める憲法解釈の偽造がなされた。そして今、敵基地攻撃の能力云々の議論が行われている。

\*集団的自衛権を認めることで、日本は法解釈の上で原理的にアメリカの戦争に加担することができるようになった。危機感を持つ必要がある。

\*ウクライナ戦争は早く終わって欲しいと思う。残念ながら、日本の立場は微妙である。安倍氏はプーチン氏との密な関係を売りにしてきた。日本政府は2014年のロシアのクリミア併合後もプーチン氏との関係を維持することに熱心だった。イラク戦争の際、当時の小泉首相は一貫して米国の立場を支持した。

後に米国政府は、イラクは当時大量破壊兵器を持っておらず、戦争正当化の根拠であった「イラクが大量破壊兵器を保持している」という主張は間違っていた、と認めた。しかし日本は未だにその時の主張は誤りだったことを認めていない。日本はロシアを非難する権利が無い。



\*G7で日本は何を主張するのか。日本が台湾問題で戦争に巻き込まれるのが心配である。世界の国々の立場も微妙である。ウクライナ戦争でも、ロシアがはっきりと悪いと言っているのは、主に西側先進国だけではないか。ブラジルのルラ大統領はロシアに理解を示し西側の武器援助を批判している。フランスのマクロン大統領まで停戦交渉の必要を主張している。サウジは近年、アメリカ離れの姿勢を見せている。チリは世界第二の生産量を誇るリチウム産業の国有化を発表した。日本ももっと独自の利益を追求すべきである。

\*G7は世界でどう見られているのか。どのような影響力を持っているのか。日本は今後も戦争をしなければ尊敬される国となることができる。ただ日本に独自の外交を期待することはできないと思う。

\*原発問題に正しく対応できていない。食糧自給率は危機的に低い状態にある。報道の自由度が低下している。男女平等も実現に程遠い状態にある。日本が高く評価される理由が見つからない。

\*少し日本を低評価し過ぎではないか。自分の海外滞在の経験から言えば、日本は多くの日本人が思っているよりもずっと海外における評判が良い。具体的な例を上げると、日本は他の何処の国よりも頻繁に国連の安全保障理事会の非常任理事国に選ばれている。安全保障理事会は国連の最も重要な、最も大きな権限を持った集まりである。この会議のメンバーになることは国際政治のひのき舞台に立つことを意味する。非常任理事国選出は様々な事情が絡んだ微妙な事柄であるが、日本が頻繁に選ばれるのはそれなりの理由がある。少なくとも、国際政治の代表に相

応しくない国とは見なされていない。またイスラエルとパレスチナの問題に絡んだ中東紛争においても、他の西側諸国と違って、一方的にイスラエルに肩入れすることなく、アラブとイスラエルの間でバランスを取って、両者と比較的友好的な関係を保ってきた。

\*先に言われた様な対米従属とか、米国の属国であるとかいう評価は正確ではない。2国間関係は、どれほど2国間に国力の違いがあるとしても、持ちつ持たれつの相補的なもので、どちらかが一方的に相手国に要求を押し付けることはできない。日本政府が本当に望んでいない事を米国がやらせることはできない。そんな風に見えるとしたら、日本政府が「米国の要求」を隠れ蓑にしているからである。バイデン大統領は核兵器の先制使用を禁止する条約を結ぶことに積極的だったが、日本など核の傘の下にある国が核抑止力を弱めると言って強く反対したために断念した経緯がある。

\*人々はそれぞれ皆世界のあるべき姿、或いはあって欲しい姿を思い描いていると思う。理想や希望がその実現を妨げる様々な事情が絡み合って現在の世界があると言える。どんな時でも望ましい姿を追求する努力を怠ってはならない。

\*海外はそもそも日本に何か期待しているのか。国はどのようにあるべきなのか、国家の正しい振る舞いとは何か。国の倫理観、国と国との関係はどのようなものであるべきなのか。考えなければならない事は沢山ある。

\*今後日本が世界に誇れる国になるためにはもっと

多様性のある社会になる必要がある。性の多様性だけでなく、外の世界に向かって門戸を開くべきである。外で外国人を見るとほっとする。そのためにも難民をもっと積極的に受け入れるべきである。

\*岸田首相は先日新しく大統領になったマルコス氏と会った際、フィリピンを重要な友好国で、東アジアにおける日本の同盟国の一つと呼んだ。人権や民主主義を重んじる国との関係を重視するということだったが、マルコス氏は就任以来民主主義を危うくしかねない問題のある行動が目立つ。

\*日本は信頼されていない。日本は日中戦争や太平洋戦争の様な過去の侵略戦争を反省していない。日本人は学校で20世紀前半の日本の戦争のことをほとんど学んでおらず、侵略の歴史を知らない。その点、同じ敗戦国であるドイツと対照的である。ドイツは過去の誤りと向き合ってEUの中で大きな役割を果たしている。お粗末と言うしかない。

\*戦前生まれの一部の人を除いて、日本人のほとんどは自らの戦争体験、戦争の記憶を持っている訳ではない。実際に戦場を体験した人間は最早いないに等しいと言える。戦争は恐ろしいものだと思っているが、それは想像の中のものである。過去とどう向き合うのが望ましいことなのか。若者がどういう役割を果たしていく必要があるのかについて考えなければならない。

\*戦争のことを聞ける機会がなくなっている。実体験として戦争を知っている世代がいなくなろうとしている。最後の世代の貴重な体験をしっかりと残していく必要がある。

## <意見交流の最後に> 吉田千秋

・色々な角度から異なる体験を踏まえて興味深い意見交換ができたと思います。力関係が相対的に変化し、G7は最早自分たちだけで世界をリードできる十分な力を持っているとは言えません。BRICSを始めグローバルサウスと呼ばれる国々が大きな力を持つようになってきました。西側先進国の価値観を一方的に適応して、世界の国々を単純に人権重視の「民主主義国」と独裁色の強い「権威主義国」の二分法で捉えるのは現実的ではありません。





・民主主義は一朝一夕で確立することのできるものではありません。複雑な国内事情を抱える多くの発展途上国は、一方的な価値の押し付けを拒否するでしょう。発展途上国の反発を招くことなく、協力し合い信頼関係を築いていくことが重要です。

・日本の指導者はどのように世界を見ているのでしょうか。残念ながら視野の狭い無能な政治家が実権を握っている様に思われてなりません。国同士の関係も重要ですが、そうした枠を越えて、民間のレベルで人々が交流し直接関係を築いていくことが大切な事です。一人ひとりが何を考えているのか知ることが国と国との関係の基礎ともなるでしょう。

・日本は一時期、他のことは何も考えず専ら企業の利益、自国の利益のために働いているという意味で“エコミックアニマル”と称され、揶揄されたこともありました。だが他方で、武力紛争の当事者とならず戦争をしない国で、経済力を持ち科学技術の発展した国で、また豊かな文化を持つ国として高く評価されていました。しかしそのような日本の評価が今危うくなっています。目指すべき方向を間違っているのではないかと心配です。私たちも他人任せにしないで、個々人が今後の日本のありかたについて考えて行くことが大切だと思います。

## <5月例会感想、意見、便りなど>

### ○<子育て支援について話し合った・・>

子育て支援について、女性だけ5名の集まりで、このテーマなら私達が何か言えるはずだし、言わなくてはいけないような気がします。どうでしょうと呼びかけました。障害を持つ息子さんを連れて参加された人が、誰もが安心して、喜びを持って生活の出来る社会になって欲しいと言われました。

国民の税金で、ペットに対するように補助金のばらまきで、誤魔化すような問題ではなく根本的な政治の姿勢こそが求められることと、皆心から納得してそれ以上の言葉が有りませんでした。誰もが自分で自分の生活を支える自信と自由、これこそが人間のプライドの根源のような気がします。(T.Tae)

### ○<マクロな視点も大事・・>

今回のテーマ「日本が世界に貢献できることは何なのか？」ミクロな視点になりがちなので、大きなテーマは難しいのですが、マクロな視点で考えることも大事だなと感じました。

最初に思ったのは、世界は日本をどのように見ているのだろうか、ということ。

米タイム誌の表紙に岸田首相を表紙にしたウェブサイトを公開したという記事を見て、平和国家である日本を軍事国家への転換を望んでいるように感じました。日本は断固たる平和国家を続けるという意志を示して、根気よく外交を続けリーダーシップを発揮することを各国の民衆は望んでいるのではないかと思います。(子猫)

### ○<また参加したい・・>



大学院生です。哲学についての勉強会をしているところは近くにないかということインターネットで検索した。すると出てきたのが今回参加させてもらったこの会だ。少々道に迷ってしまい、開始時間ぎりぎりの到着になってしまったが、秘密基地のような部屋で会は始まった。

皆さんが「先生」と呼ぶ吉田さんの、今回の議題の問題提起に始まり、メンバーの方一人ひとり意見を述べていく。一人一人の方がそれぞれに考えていることを、熱をもって話していき、他のメンバーはそれを真剣に聞き入る。それぞれの方の人生が乗ったかのような、楽しそうな表情と随所にみられるそれぞれの方の個性に感動した。「この会良いなあ」と。ぜひまた参加したい。(マツタケさん)

### ○<G7広島サミットを終えて>

先のG7広島サミットについて、賛否両論はあるが、

個人的には今の政府は、よくやったと思っている。加点は出来ないとしても、大幅減点にはならないだろう。

その理由として、G7・招待国・ウクライナの首脳らを原爆資料館へ3度に渡り訪問させたこと、そしてかねてから計画済みではあったであろうが、ゼレンスキー大統領とロシア制裁に否定的なインドはじめとしたグローバルサウス諸国との面談機会を設営したことも大きな成果である。このことによりロシア侵攻が収まるものでもなく、その実利はないかもしれないが、これ以上のことを実行できるリーダーは、現状誰もいないだろう。

たまたま、日本が主催国であったから、偶然にも岸田首相が段取りしただけであるとも言えるが、自らが爆発物を投げ込まれた事件もあった中で、陸海空全てにおける警備も並々ならぬものがあったことは間違いない。様々な批判や、支持率稼ぎなどのご意見もあろうが、まずはご苦労さまと伝えたい。

(ryosa)

#### ○<ODA援助は公正な観点で>

途上国から見ると、先進国からのODAは無条件にありがたいが、自分たちの国の矛盾を更に酷くする「援助」だけはゴメンだろう。かつての韓国が好例だ。悪名高い朴正熙軍事政権に、第二次大戦時の和解・清算を含む援助を日韓条約の内容にしたから、そこでボタンの掛け違いが起こり、いまだにギクシャクが続いている。韓国でも日本でも大迷惑になっている。

軍事政権相手が問題なだけではない。日本政府は援助の基準を親米的な政権かどうかには比重を置いてきたし、未だにそうだ。時の政権が続くとは限らないのに政治的にそれが優先されている。援助は人道を最優先にすべきで、政治利用を絡めるべきではない。日本もG7もそうした公正さを強く確認して欲しい。

(フィリピン・ウォチャー)

#### ○<核兵器禁止の訴えこそ>

G7が広島で開催されて、岸田総理は「核兵器禁止」を提起するのではなく、「核抑止力論」でまとめ上げてしまった。国民の立場からすると唯一の戦争による被爆国であり、世界の平和の理念を憲法化し70年以上戦争をしないで来た経緯がある。国連には「核兵器禁止条約」があり、戦争ではなく平和を呼びかける世論が出てきている。日本としては当事国に対しては「戦争を止め正義に基づいて解決するよう」



繰り返し提起し戦争が終結するまで再度提起して行く必要があるだろう。(アダム・スミス)

#### ○<非武装平和のアピールを>

今、「日本が世界に貢献できることは何なのか？」を考える時、「G7を前に議長国としての日本」の立ち位置を、グローバル観点から、考察する必要性を感じた。配布資料の中で、寺島実郎氏のインタビュー記事は示唆に富んだものであり、勉強になった。対ロシア、対中国で、G7だけで結束しておればよいというわけではいけないということである。

国際情勢は多極化し、多様な状況下にある。先進国と言いつつ、日本はG7のなかで、「報道の自由」や「LGPT対応」などの問題にしても、最下位である。しかし、日本が世界に先駆けてアピールできることは、唯一「非武装の平和憲法を持っている国」であり、このことはすばらしい。日本が戦争をしない平和国家であることが、今後も永続すれば、世界から尊敬される国として評価され、このことが世界貢献につながるものだと、改めて感じた次第である。(MS)

#### <世界の中の地位低下を自覚して>

G7に関して自分の意見を述べます。世界のGDPに対する日本のGDPのシェアは30年前の15パーセントから、現在は5パーセントほどになっております。また報道の自由度ランキングは世界68位、ジェンダーギャップ指数は世界120位です。

また最近やっと取り上げられ、半世紀以上にわたって数百人が性的虐待の被害者になったといわれるジャニー喜多川の所業を認識していながらずっと隠蔽してきた日本の状況を考えるとともG7にいる資格はないように思います。

それに国内では貧困層も急拡大しており、外国に金をばらまける状況でないのは明らかです。いっその事G7から脱退して、国の在り方を一から考え直してほうがいいのではないかと自分は思います。

(たなか)



<この一冊> 大門正克著『世界の片隅で日本国憲法をたぐりよせる』  
岩波ブックレット、2023年3月刊

いま憲法は、岸田政権の強権的なやり方で、平和主義・国民主権・基本的人権がないがしろにされ、改憲に向けて攻勢を強めています。そして大仰な言葉で危機を煽り立て、まじめな議論をせず、憲法は守らなくてもよいような流れを作っているのです。

そういう中で、憲法がいかに大切かを自分の生活にしっかりむすびつけて感得することが大切だと思われまます。生きている現場、その中で生きている自分が世界とどのようにつながっているのか、それをつかみたいものです。

本書は、この課題に答えて、憲法のすばらしさを生活の中で見出した貴重な記録です。「大阪のオモニ」は、韓国の済州島から戦争末期に日本にきた朝鮮人女性が夜間中学で勉強を始め、彼女を通じて教師の女性が「朝鮮戦争」について改めて憲法の平和条項について考えさせられました。

他に、岩手の小さな村で、自分と地域に密着して戦前の戦争、現下のイラク戦争についてについて抗った「通信・おなご」の記し、ローカルとグローバル、歴史と現在をつなぐ営みを発見する。

本書は大げさな言葉はないが、憲法をほんとうにわがものにする

ということの意味、内容を教えてくれる。ぜひ、手にとって対話の素材にして欲しいと思います。

(Sensyu)



この一本 高 賛侑 監督「ワタシタチハ ニンゲンダ！」2022年8月制作、日本

入管法の問題を鋭く突いたドキュメンタリー映画「ワタシタチモニンゲンダ！」を観て衝撃を受けた。自分の国が、技能実習生として働く外国人やオーバーステイで収容されている人たちに、いかに深刻な人権侵害を犯しているか、写された現実には想像以上だった。



しかも、その起源は戦前から続いてきた朝鮮人に対する差別や弾圧にあるという。

技能実習生の場合、就業先でミスマッチが起きたら転職ができない制度的欠陥が事を深刻にしている。本人も受け入れ企業も入管も対処の幅がない結果、様々な無理強いをすることになる。やはり、こうしたことは豊富な経験を持つ欧米に学ぶ必要がある。

たまたまうちの次男はドイツで音楽を学ぶことに

なったが、受け入れた専門学校は、予め相当数の学生が不適応を起こすことを見越したカリキュラムになっていたようだ。頑張るのは結構だが、「玉砕」は困る。別の道に誘導する仕掛けが随所に組まれているからこそ、留学受け入れが長く続いているのだろう。



日本の場合、人権意識の向上が遅かった歴史の中、かつて植民地だった人々を想定して作られた制度から始まった。差別や蔑視が伴い、パワハラは当たり前の風潮は、今も引きずっているようだ。だが、今やそんな時代ではない。あらゆるハラスメントを排除した上でのマイルドな規律の確保が不可欠だ。

(O.Ken)

## 哲学カフェ 第29期(2023年前半)例会予定 \*毎月第2木曜日、午後7:00~9:00

ふれあいスペース⇒コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第180回例会 6月8日(木)	「中国と仲良くできないものか？」 *岸田政権は脅威を煽っていますが、中国と仲良くしたほうが良いのでは。 *例会では、中国と長年交流してきた人の話を聞いて意見交換します。
第181回例会 7月15日(土) 14:00~16:30	設立15周年記念行事:講演と討論 ◆会場 長良川スポーツプラザ テーマ「ロシアとウクライナ戦争…日本はどう向き合えばいいのか？」 講演:竹森正孝さん(岐阜大学名誉教授、ロシア・東欧比較憲法研究) リアル参加+オンライン配信(事前申し込み必要)も行います。
第182回 8月10日(木)	例会テーマ寄せて下さい
第183回 9月14日(木)	例会テーマ寄せて下さい

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願ひます。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



アラカルト

★連休明け、「公文書を疎かにすることは、主権者たる人民を蔑ろにする」と批判した立民の参議院議員に対して、「人民との表現に違和感、日本を社会主義と思っているのか」といった非難でツイッターが炎上、との記事に出会った。何が問題なのだろう？

★国名に「人民」が入った国は現在3つだが、かつては東欧やアフリカなどに25もあったという。これらは建国時には、勤労者大衆を中心に据えた社会の実現を目指し、将来は社会主義への移行を展望したと思われる。ところが、その過程で理念と現実が乖離し変更となった。そして変更のない中国や北朝鮮などにも、似通った実態が漏れ聞こえ、評判はよくない。

★一方、民主主義を自称する国でも、主権者たる国民(人民)が充分尊重されているかと問えば、Yesと無条件に言える国

はこれも稀だ。民主主義のリーダー(?)たる米国が大変な格差社会で、特権層と政権との癒着も激しく、他国の主権を何度も抑圧してきた。わが国も国内的には似たり寄つたりの矛盾の中、実態は建前からの乖離は大きい。

★「人民」の語に限らず、好印象な言葉を我田引水し、批判は印象が悪そうな言葉を牽強付会する。それが政治の常かも知れないが、昨今の印象操作的な政治家の言動には辟易する。例えば、政府が口にする常套句「丁寧に説明する」は、実態は「慇懃にこり押し」と同義だ。

★また、こうした羊頭狗肉的手法は、冷静な解決の解決を妨げ、感情論の激突を生みやすい。「印象付け」より現実の実態をオープンにし、客観視する、そういう言論空間を大切にしないと、社会は歪む。特にメディアにはそれを強く望みたい。SNS上でも同じだ。情報発信の倫理が問われている。

(大橋健司)